



「リズムにのって、たのしくね」

ゆるり

こされんクリスマスの集い ステージ発表より



広報

こはくかい

新春

号

○発 行／湖北会 広報室(法人本部)

○住 所／滋賀県長浜市富田町431番地5

○発行者／北野 憲一

○発行日／平成31年1月21日

年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

2019年(平成31年)の年頭に当たり、謹んで新年のお慶びを申しあげます。

旧年中は、当法人が実施します各事業の運営に格別のご理解ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、本年は、5月に元号の変更、10月に消費税の2%アップが予定されております。また、景気も貿易摩擦の影響で不透明な状況が続くと言われており、社会的には大きな節目の年になりそうです。これら社会の変化は、法人の運営や皆さん的生活に少なからず影響が出るものと考えられます。

このような状況下ではありますが、湖北会としては、「その人らしく、地域で働きたい、暮らしたい、楽しみたい」という法人経営の原点に沿って、多様化する障害福祉ニーズに真正面から対応していくたいと考えております。合わせて、湖北福祉圏域における法人としての役割を着実に果たしていくければと考えております。

利用者支援におきましては、役員・職員が一丸となり、必要な時に必要な支援が提供できるよう、人材確保とさらなる専門性の向上に努めて行く所存です。

また、長年の懸案となっております「湖北まこも」の改築については、法人一丸となって取り組んでまいります。

ここに旧年中のご厚情にあらためて深く感謝申し上げますとともに、本年も変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

最後に、ご支援いただきます皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げまして、新年の挨拶とさせていただきます。

2019年(平成31年) 1月
社会福祉法人 湖北会
理事長 北野 憲一
役職員一同

平成31年度 採用者 内定辞令書交付式・交流会開催



平成31年4月1日より社会福祉法人湖北会の職員として新しく入職いただく、採用予定者に対して、12月22日(土)に内定辞令書交付式を実施しました。

採用予定者4名の方に、北野理事長より内定辞令書が手渡され、また、訓辭をいただき、採用内定者の方々は入職に対する期待感を高め、湖北会との一体感を感じて頂けたのではないかでしょうか。

その後、会場を移し先輩職員と、また、採用内定者同士の交流会を行い、笑顔で和やかな雰囲気の中で、楽しく交流を深めて頂きました。

★採用内定者の来春4月からの入職を心待ちにするとともに、湖北会での活躍に期待しています。★

「湖北のアール・ブリュッド展2018」開催

「湖北のアール・ブリュッド展2018」が11月17日・18日、長浜曳山博物館伝承スタジオで開催されました。湖北会の事業所の利用者の皆さん的作品も多く展示させていただきました。会を重ねるごとに湖北の作品で展示スペースが埋まってしまう程、素晴らしい作品が多くなり、芸術活動が根付いてきていると実感しています。



湖北会 パフォーマンス部会

パフォーマンス部会は今年度から毎月2回、神照まちづくりセンターに集まり、音楽療法の森田先生、中村先生の指導のもと、流行曲などに合わせて楽しく身体を動かす時間をもっています。星野源のドラえもんの曲や、ひよこりはん、USA…みなさんともよく知っておられ、テレビの映像を真剣に観察されているのだなあと思いました。各事業所の利用者さんが集まるとなかなかの大所帯ですが、それだけ参加希望者も多い人気部会となっていると感じます。毎回利用者さんの躍動した姿に新たなアイデアが生まれ、可能性は広がるばかりです。(写真は、こされんクリスマスの集いに参加した時の様子)また、11月に東京から詩人の桑原滝弥先生を迎えて、マイクを通した声のパフォーマンス教室を開催。利用者さんの意外な一面が見られた充実した時間となりました。



あそしあ グループ旅行①『新幹線に乗って出かけよう』

10月31日に米原駅から新幹線に乗って浜松の餃子を食べに行きました。

利用者さんは、行きの新幹線の車内では中の様子を見たり、外の風景を眺めたりして過ごされました。カメラを向けると笑顔でこちらを向いてくださったり外の景色に集中されたりしていました。お昼には浜松名物の浜松餃子の他にラーメンや春巻きなども注文され、皆さん美味しいように食べられていきました。

浜松楽器博物館で体験コーナーに立ち寄りハンドベルやピアノ、太鼓や電子ドラムやモンゴル楽器の馬頭琴などいろいろな楽器に触れて音を奏でられていました。



グループ旅行②『ロイヤルオークホテルへ豪華ランチの旅!』



琵琶湖を眺めながら食べるステーキは、普段の食事より格別なものでした。

大津市にあるロイヤルオークホテル内のレストラン「ステーキISHIYAMA」で、普段とは一味違うランチタイムを過ごしました。

琵琶湖を一望できるカウンター席、洗練された料理の数々、親切丁寧なスタッフのサービスなど、特別感が至る所に演出されていました。

利用者さんも、豪華な食事と贅沢な空間を味わっておられ、付き添い職員と歓談されながら食事を味わう方や静かに食べ進められる方、目の前で焼き上げられているステーキを期待に満ちて見つめておられる方などいらっしゃいました。

食後に「ごちそうさまでした」とシェフに言葉をかけておられた利用者の方のお姿から、食を楽しむことの素晴らしさを再発見することができました。

素敵なお料理と華やかな空間に彩られた旅行となりました。

ふくらの森 クリスマス忘年会

毎年恒例のふくらの森の忘年会が12月25日に開催されました。日取りも丁度クリスマスと重なったので、雰囲気もいつも違ってわくわく感が増しました。余興は地元のシンガーソングライターの岡田和宏さんによるコンサートでした。歌もギター演奏も素晴らしい、普段はみんなが知っている歌じゃないと盛り上がりませんが、プロが歌うと、オリジナル曲でも十分魅了できるのですね。上品な音楽を堪能した後の特製ケーキには「おいしかった!」とみんな大喜び。平成最期の忘年会は、こうして幕を閉じたのでした。



湖北まこも 忘年会



湖北まこもでは、利用者さんの今年1年の慰労を兼ねた忘年会を、12月12日に米原の写風館にて開催しました。創作料理に舌鼓を打ちながら、利用者さんのカラオケ披露で大いに盛り上がり、会の終わりにはテーブルの下に隠してあったサプライズプレゼントに一同大喜び!!皆さんの笑顔が忘れられない一日となりました。

湖北まこも 平成30年度「文化の集い」参加

今年の知ハン協文化の集いは、長崎県雲仙市より「瑞宝太鼓」をお迎えし、ひこね市文化プラザにて開催されました。彼らの「希望し、努力し、感謝して生きよ」というメッセージ性を持った、いのちが躍動する迫力満点の和太鼓に、利用者さんたちは感銘をもって聴き入っておられました。



いぶきやま ホスピタルライブ開催

『いぶきやまに歌う坂本龍馬がやってきた!』

「ホスピタルライブ」と名付けられた公演を全国の病院や福祉施設などを回って開催されている音楽活動家の松尾貴臣氏が今回、米原市に来られ、10月30日にい



ぶきやまでもライブを行ってもらいました。利用者の皆さんも良く知っておられるカバー曲や、松尾さんのオリジナルの曲など30分程の時間でしたが、皆さん、思い思いの形で楽しみました。ライブ後には、順々に松尾さんと握手をしに行ったり、松尾さんのCDを嬉しそうに購入されサインをもらっておられる方もおられたりと最後まで楽しい時間を過ごしました。



ワークスさぼてん 火災訓練

平成30年11月9日から11月15日までの秋季全国火災予防運動に伴い、11月13日に事業所と長浜消防東浅井分署と合同訓練を実施しました。火災発見後、職員は直ちに119番通報から避難誘導・初期消火活動まで一連の流れを確認しました。訓練当日は、タンク車やポンプ車も出動し放水作業も間近で見学することができ、利用者さんも職員も貴重な体験ができました。



シリーズ ますすめスポット vol. 16 琵琶湖博物館

少し遠距離ですが、「琵琶湖博物館」はどうでしょうか? 個人的にも何回か行きましたが、そのたびに新しい発見や驚きがありましたし、「やまぶき」でも就労継続支援B型の利用者の皆さんと一緒に余暇活動として出かけて好評でした。琵琶湖の自然と生き立ちから生き物の移り変わりを利用者・職員とも楽しめる「体験型」博物館です。



水族展示室も面白く、特に人気は「ビワコオオナマズ」。とても大きく迫力があり、売店では大・中・小のかわいい縫いぐるみも販売しています。「やまぶき」の職員も購入して、利用者の活動に利用しています。

「樹冠トレイン」という空中散歩道が今年オープンしました。天気が良ければ展望も良く、琵琶湖へ続く素敵な散歩道です。また、時間がありましたら、お隣の水生植物公園もいいですよ。ちょっと広すぎて歩き疲れてしまうかもしれません……。

湖北地域から行くと一日仕事になってしまいますが、ドライブを兼ねて行かれてみてはいかがでしょうか。

やまぶき 大音

編集後記

明けましておめでとうございます。年末年始も、この地域では雪に見舞われることもなく、穏やかな新年が迎えられたことをありがたく思います。昨年は、大きな地震や、豪雨、そして猛暑、台風という大きな自然災害が重なりました。私たちはこの大自然の猛威には、到底逆らえないものでした。

今年は30年にわたる平成が閉じ、新しい元号とともに新たな時代が幕あけ致します。新しい時代に期待を込めて、少しでも災いのない良い年が刻めることを願いたいです。

編集委員 小川